哲学がっこう

関西勤労者教育協会 中田進

ものの見方・考え方—世界観について

一 なぜ哲学を学ぶ必要があるのか

そもそも人間とは・・・知性・労働・社会性・・・

集団労働で言葉を獲得、言葉の力で理性（考える力）、労働のなかで道具の製作と「かたち」へのこだわり。美的感情（感性）を獲得。科学と芸術。

ものの見方・考え方の形成と社会のしくみ……マスコミ・学校教育の影響

ものの見方と生き方の関係……判断の基準

格差と貧困をどうみるか、個人の問題としてみるのか、社会的な背景からみるのか
人間の幸福とか、人間の命をどうみるか、ものの見方によって不幸の原因のとらえ方が異なる。
対処の仕方も変わる。支配者に都合のいい見方で生きるとは・・・

哲学とは

語源……フィロ・ソフィア……知への愛。希哲学と翻訳。その後哲学に。

「理論的で体系的な世界観」・・・哲学は理性を力に。宗教は信仰にもとづく。

二 科学的な見方の基本 1・唯物論

哲学の根本問題

物質と意識の関係をめぐって……世界の根源はなにか

物質が根源、意識は二次的……唯物論 「物質が大切」と誤解してはダメ

意識が根源、物質は二次的……観念論

物質とは……意識から独立した客観的実在。意識から独立・感覚によってとらえられる。

意識とは……感覚・感情・意志・思考……精神的なもの

高度で複雑なしくみの「脳」の働きに依存、外界の反映、いつも正しく反映しているとは限らない。

客観世界と認識内容が一致する時。真理。「ありのまま」をみる。

意識の能動性を誇大視……観念論におちいる一つの原因

観念論の二つのタイプ……客観的観念論、主観的観念論

どんな時にあやまるか……主観・独断・偏見・思い込み・早とちり

支配階級に都合のよい考え方として広められて……

どうすれば、ありのままをとらえることができるのか

事実をよくしらべる。なぜ……と原因をしらべる。貧困の原因は、自己責任か

現代社会の生み出す……ワーキングプアー。労働法制の改悪。非正規激増。生活保護以下400万所帯。社会の仕組みに根源が。

「幸も不幸も心の持ち方一つできまる」

「なにごととも運命」

認識とその発展

実践と認識。客観世界と認識が一致したとき真理。認識が真理かどうかの検証は、実践。

認識の過程。真実見抜くには・・・部分でと止まらず全体へ。表面から内面へ。現象から本質へ自由について。必然性の認識が自由の前提。学ぶことは自由への道

三 科学的な見方の基本 2・弁証法

世界のあり方をどうとらえるか

連関、運動、発展.....生きた姿をとらえる.....展望。弁証法的な見方
バラバラ、静止、くりかえし.....固定的にみる・絶望

どんなものごとすべてつながりの中にある

政治と経済、仕事と運動のなかでのつながり。つながり・・・相互に作用する
すべてのものは運動・変化の中にある。移り変わりの過程。境界はない。

運動のなかで新しいものが生まれてくる.....発展・・・発展の姿、原動力、方向
なぜ誤ったものの見方(バラバラ、静止、くりかえし)におちいるか

原因【その1】.....ものごとをくわしく知ろうとすると。専門バカ。自分の分野しか。
部分をしっかり見る必要が。止めて、ばらして、分けて。

認識過程に原因が。たしかに部分的に、相対的に、一時的に静止。

【その2】.....私たちを支配している階級がひろげるから。その方が都合がよい。

世の中なんか変わらない。なるようにしかならん。

人間なんてしょせんバラバラ。がんばってもいっしょ。

結局はくりかえし。仕方がないの。

生活、仕事、運動のなかでどうすれば「生きた姿」をとらえることができるか

目先だけをみない、もう少し先をみる、そして先を読む。

「木を見て森を見ない」のではなく、「木も森も見よう」

表面だけでなく、内面をみよう。一時的でなく、長期的にみよう。部分だけでなく、全面をみよう。

生活も仕事も運動も.....人の意見を謙虚にきく。みんなでとことん話し合う。

生き生き討論。民主主義こそ力.....真理への道。世の中そう簡単には変わらない。だから

運動の成果が見えないとき、苦しくつらい。そのとき視野が狭く、展望・確信も揺らぐ

人間を豊かにとらえる。人が人らしく豊かに生きる。

一人ひとりの個性が。尊厳を大切に。文化を大切に。

発展とは・・・発展の姿・・・量的変化と質的变化。発展の原動力は内部にある「矛盾」

発展の方向は・・・弁証法的否定。新しいものへ。らせん階段。

社会のしくみと発展法則—社会科学の基礎

一 社会のしくみ

自然には科学は成り立つことはわかるが、どうして社会にも科学は成り立つのか

社会とは.....人と人との諸関係の総体。

諸関係.....経済的関係、政治的関係、文化的関係

それぞれの関係を対象にした科学とその発展.....経済学、政治学、法律学、歴史学、
文化人類学、社会学.....

人が生きてはじめて社会は成り立つ・・・史的唯物論

生きるためには、生産。生産における人間関係.....生産関係.....経済的関係

社会の土台.....生産関係・経済。

上部構造...政治的法的諸制度、道徳・芸術・宗教・哲学などイデオロギー

二 社会発展の法則

生産関係の移り変わり.....生産力の発展と生産関係。世界共通の法則が！

生産関係の核心.....労働過程の三要素のなかの二つ（労働対象と労働手段）生産手段

生産手段の所有関係・・共同所有と私的所有

生産力の低い段階では共同所有→原始共産制.....平等な人間関係

少し高い生産力の段階に私的所有に.....奴隷制、封建制、資本主義

私的所有の社会は.....階級と階級矛盾、階級対立、階級闘争

人類の未来は・・生産手段の社会的所有、搾取はなくなり、労働時間の短縮・人間発達

ソ連は・・社会主義・共産主義とは無縁な人間抑圧の社会であった。

階級と国家

主な生産手段を所有する少数の支配階級が多数を支配するため.....国家

国家は公的な機能をもっているが、本質は抑圧のための機構。軍隊・警察・監獄。

戦前の弾圧・警察軍隊『蟹工船』（小林多喜二著）。多喜二29歳で虐殺。

反戦川柳作家鶴彬、29歳で獄死。（映画「鶴彬の心の軌跡」）。政府・議会・官僚機構・裁判所

...階級支配のための・思想。文化・イデオロギー。教育とマスコミ。

2010年の総選挙「自民か民主か」二大政党制キャンペーン。8ヶ月。

いま民主に失望、怒りへ。自民は崩壊過程

第三極・・みんなの党、たちあがれ日本・・沈む泥舟から逃げ出す醜い姿。公明も反省なく。

日本国憲法の歴史的意義。憲法は権力を規制し国民を励ます。基本的人権・・闘いの成果

三 現代の階級闘争・・国民が主人公の日本を。政治は変わる！

戦前は独占資本主義・半封建的地主制度・絶対主義的天皇制。

戦後はアメリカ帝国主義と復活した独占資本（財閥）の支配

経済闘争・・賃金闘争、時間短縮闘争、増員、有給休暇、そのたの権利

雇用不安定。生活破壊。輸出依存の経済・アメリカ景気後退。サブプライムローン。投機。

アメリカ発危機・世界恐慌。派遣切り。倒産。外需依存の経済が。内部留保を国民に還元。労働者、中小企業・零細業を支援。ルールある社会を。

政治闘争・・法律・制度をめぐるたたかい。医療・福祉・教育の切り捨での反対、社会保障切り捨て。消費税増税反対。反核・平和の運動。「9条の会」全国に広がる。8000。

9条世界会議の成功。議会制民主主義のもとで・・07年参議院選挙・自民大敗・公明議席減。

つづく09年総選挙自公政権退場。民主圧勝。そしていま

思想・文化の闘争・・学習・教育。文化運動の重要性。学び語りあうことに喜びが・・。

学習こそ力。労働学校での学び・・基礎理論。仲間との交流。人間の絆。たたかひの支援。

『学習の友』・・定期購読、読者の集い・毎月集まり「読み」「語り」楽しいひととき。

職場の悩み、仕事の中身、働く、誇り、喜び、厳しさ・・そして社会の動きを、ぼやくのも大切しかし・・展望を、全国の仲間の苦勞、キラリ輝くひとこと。継続こそ

まとめ

参議院選挙・・7月11日。国民の閉塞感、このままでは棄権か新党への幻想。国民の力で政治は変えられる。暮らしと経済の展望を、安保のない平和な日本、垣根をつくらず語りかけ、大きなうねりを。いまがチャンス・・科学的なものの見方を語るとき。